２　学習過程

(1) 学習意欲の向上をめざした思考力・判断力・表現力を育成する学習過程

子どもたちは，学習する内容を分かりたいと思っている。そして，分かったことが次への学習意欲につながっていく。さらに，分かったことを生かして新たな問題にチャレンジすることで，できるようになった自分を実感し，社会で起こっている様々な出来事に対して関心をもち，その仕組みや背景，関係性などを知りたい・分かりたいという思いを抱くようになる。

そのような子どもたちを育てていくためには，社会のことを知ったり，社会のことが分かったり，社会に生かしたりしていく力が求められる。その中核をなすものが，思考力・判断力・表現力である。これらの力を，社会科の中で育てていくための学習過程は，どうあるべきなのだろうか。学習過程は，弾力的に考えていくべきではあるが，ここでは，基本的な学習過程について挙げてみる。

(2) 基本的な三つの学習過程

第1段階「であう」・第2段階「ふかめる」・第3段階「いかす」の3段階を基本的な学習過程とする。その中の第1・2段階である「であう」「ふかめる」段階は，主として社会認識を育てる場，「いかす」段階は，実践的な力を育てる場として位置付け，社会認識と市民的・公民的資質の両面をバランスよく単元の中に配置できるように意識していきたい。

①　「であう」段階

社会的事象に出会い，学習問題をつくり，学習計画を立てる段階である。

ア　社会的事象（教材）と出会う

単元の中で学習していく社会的事象との出会いは，単元の導入部に当たるものである。そのため，これからの学習に対する子どもたちの関心や意欲を高めることができる出会いを大切にしたい。

その方策の一つとして，驚きと発見のある事象との出会いが考えられる。

□　驚きや発見のある事象との出会いの具体例

・　生産量が日本一の広島かき

日頃，店頭で見かけたり食したりしているかきの生産量は，広島が日本一で，しかも半分以上の生産量を誇っていることを知ることで驚きや発見のある出会いとなる。

・　今とは違う道具を使って生活していた昔の人々

郷土資料館で昔の道具を観察し，今は使われていない道具を昔の人たちが使って生活していたことを知ることで，驚きや発見のある出会いとなる。

・　米つくりが盛んな東日本

主食である米は日本全国でつくられているが，生産量を都道府県別に分類すると，東日本での生産量が多いことを知ることで，驚きや発見の

ある出会いとなる。

・　約260年も続いた江戸時代

約100年も続いた戦国時代終期，織田信長や豊臣秀吉が全国統一を目指していったが，それは十数年しか続かなかった。しかし，その次の時代である江戸時代は260年間も続いたことを知ることで，驚きや発見のある出会いとなる。

これらの事象を，実物や写真，統計資料などを提示しながらそれらを読み取らせることで，子どもたちが主体的に知識として獲得していくことができるようにすることを大切にしていきたい。

イ　学習問題をつくる

驚きと発見のある事象と出会った子どもたちは，素朴な疑問を抱くようになる。それは，「どのようにしているのだろう？」，「なぜだろう？」という疑問である。

先の例で述べれば，広島のかきの生産量は日本一である事象に出会った子どもたちは，「なぜ，広島のかきの生産量は日本一なのだろう？」という疑問を抱くであろう。昔の人々は，今とは違う道具を使って生活していた事象に出会った子どもたちは，「どのようにして昔の道具を使っていたのだろう？」という疑問を抱くであろう。このような子どもたちの中から素朴にわき出てくる疑問を出し合っていくことから学級全体の学習問題がつくられていく。

その際，単元を貫く学習問題を設定できるように配慮したい。そうすることで，子どもたちも教師も，その単元における学習を計画的に進めていくことができる。

ウ　学習計画を立てる

学習問題ができれば，その予想を立てることができる。その予想を検証していくために，「～が分かれば解決できる。」，「～で調べれば資料があるのではないか。」こう考えることで，何をどのように調べていけばよいかが見えてくる。このようにして学習計画を立てていく。

②　「ふかめる」段階

子どもたちが調べたことや提示された資料から，社会的事象の仕組みや背景，関係性などを考え，表現していく段階である。

ア　調べたことから考え，表現する

学習問題の解決に向けて，個人やグループで調べていく。その過程では，以下の学習活動を取り入れて実践していきたい。

1)　適切な方法で情報を収集する。
2)　収集した情報を整理し分析する。
3)　分析したことをもとに自分たちなりの結論を出す。
4)　分かったことだけではなく，調べた結果から考えられることをまとめる。
5)　自分たちが調べた結果を適切に伝わる方法を考え，発表する。

イ　学習問題に迫る

学習問題に対して，調べた結果を基に，その解決に向けて話し合う。自分やグループの結果だけではなく，他の意見を聞き取り，比較・検討していくことで様々な見方ができるようになってくる。ただ，子どもたちが調べたことだけに依存した場合，社会的事象の仕組みや背景，関係性などに，深く迫っていくことは難しい。

また，誤った解釈をしている場合もある。そのため，教師の指導力も十分に発揮したい。例えば教師の切り返し発問や新たな資料の提示などで，経済的な視点や国際的な視点，政治的な視点，歴史的な視点など，様々な社会的な見方・考え方で事象の仕組みや背景，関係性などを分析していくことが考えられる。これが「ふかめる」ということである。

③　「いかす」段階

学習問題を解決していく中で習得していった知識や社会的なものの見方・考え方を生かしていく段階である。具体的には，以下の三つのものが挙げられる。

ア　社会参画型

社会的問題に対して，その解決策を考え，表現するものである。考えられる解決策の中からより合理的と思われる方法を判断していく意思決定に迫る授業として取り扱うことができる。また，よりよい解決策を模索し実際に社会に働きかけていく授業としても取り扱うことができる。

例を挙げると以下のような学習問題の設定が考えられる。

□　かきの生産量を増やしていくためには，どうしたらよいだろうか。（中学年）
□　ごみの量を減らしていくための解決方法を考えよう。（中学年）
□　自給率を上げていくためには，どうしたらよいだろうか。（第5学年）
□　日本の関係の深い国々と，どのように交流していけばよいのだろうか。（第6学年）

イ　活用型

新たな問題や他の学習へ発展していくものである。

新たな問題への発展とは，まだ解決していない部分や新たに生まれた問題について，自分なりにこだわりをもって学習し続けることである。発展的な学習として取り扱うこともできる。

他の学習への発展とは，他の事例に置き換えて事象を分析していくことである。例えば，中越沖地震の復興について学んだことを生かして，東日本大震災の復興の未来を考えるというものが，その一例として考えられる。その他にも，以下のような学習問題の設定が考えられる。

□　自分たちの住む地域のように，広島市も場所によって違いがあるのだろうか。（中学年）

□　総領町の他に，地域の資源を守ったり活用したりしながらまちづくりをしているところはあるのだろうか。（中学年）
□　水俣市のように，広島市でも環境のことを考えた取組はなされているのだろうか。（第5学年）
□　戦国の世では，広島県でも争いがあったのだろうか。（第6学年）

ウ　振り返り型

学習を振り返りながら，総合的に判断するものである。例えば，「であう」段階で立てた単元を貫く学習問題について，「ふかめる」段階で学習してきたことを振り返りながらまとめていき表現していくことである。「これから先，米の生産量はどうなっていくとよいだろうか？」という学習問題に対して，調べたことから考えて，意見を交流していく中で，最終的な自分の考えを判断し，表現することがこれに当たる。

このような学習を進めていく際には，単元を貫く学習問題に対してその答えを導き出していく単元を構成し，問いと答えの構造を明らかにした授業つくりを展開していくことがより求められる。例を挙げると以下の学習問題の設定を考えることができる。

□　わたしたちの学校の周りには，場所によってどのようなちがいがあるのだろうか。（中学年）
□　広島県は，世界とどのような関わりがあるのだろうか。（中学年）
□　情報ネットワークは，わたしたちの生活にどのような影響を与えているのだろうか。（第5学年）
□　戦争が終わってから，日本はどのように変わっていったのだろうか。（第6学年）

その他にも，学習したことを振り返りながらポスターや新聞等にまとめていくという学習も考えられる。例えば，中学年で広島県の様子について学習した子どもたちが「広島県を世界に紹介しよう」というテーマでポスターつくりをしたり，5学年で工業について学習してきた子どもたちが「日本の工業の特色をまとめよう」というテーマで新聞つくりをしたりするものがこれに当たる。

(3) 具体的な実践例

これまで，学習意欲の向上をめざした思考力・判断力・表現力を育てていくための学習過程とその具体例を断片的に述べてきたが，ここからは，第3学年単元「わたしたちのくらしとものをつくる仕事－かきを育てる仕事－」を事例に，単元を通した具体的な実践例を示しておきたい。

学習過程			学習活動と児童の反応	支援・留意事項
社会認識を育てる場	であう	社会的事象と出会う	① 広島で有名なものを発表していく中で，かきの生産量が日本一であることを知る。	○ グラフや視覚的資料を用いながら，全国生産量の60％を占めていることを実感できるようにする。
		学習問題をつくる	② 広島のかきの生産量が日本一であることから，これから学習していきたいことを考え，学習問題に対する予想を立てる。	○ 出された学習問題の中から，より社会のことが分かるものを選ぶことができるように話し合い，学習問題を絞っていく。
		なぜ，広島のかきの生産量は，日本一なのだろうか？		
			〈予想〉 ・ 広島湾にかきがいっぱい流れてきているから ・ 広島湾にはかきのえさがたくさんいるから ・ かきを釣る道具が工夫されているから ・ 他の所よりも昔からかきを取っていたから	○ 予想段階なので，どのような意見でも肯定的に受け止めるようにする。
		学習計画を立てる	③ 何を調べていけば，学習問題を解決できるか話し合い，適切な調べ方を選んでいく。 〈調べていくこと〉 ・ かきって，どのような生き物なのだろうか？ ・ どのようにして，かきは育っているのだろうか？ ・ なぜ，かきは広島湾にたくさんいるのか？	○ 予想に対して，切り返し発問をすることで，かきについて分かっていない自分に気付くことができるようにすることで，学習意欲を喚起する。
	ふかめ	調べたことから考え，表現する ↓ ↑	④ かきそのものの生態を調べ，予想を検証していく。 ・ かきは，魚を釣るみたいにしているのではなく，人	○ 分かったことから，予想段階の考えと当てはまらないものを選びながら，学習

	る	学習問題に迫る	の手で育てているんだ。 ・ 人の手で育てることを，養殖っていうんだね。	問題に迫っていく。
			⑤　広島のかきの養殖方法を調べる。 ・ 約５００年も前から養殖されていたんだね。 ・ いろいろな人や施設が，様々な養殖法をあみ出していったんだね。 ・ いかだになって，たくさんのかきが養殖できるようになったんだね。	○　いかだ式垂下養殖法によって養殖できる範囲が広がり，生産量が増えていったことに気付くようにする。
			⑥　広島の海でかきの生産量が日本一になっている地理的（地形的・自然的）な理由を調べる。 ・ 広島の海は島に囲まれていて，いかだでの養殖に合っているんだね。 ・ 太田川から栄養のある水が流れてきているから，かきのえさがたくさんあるんだね。 ・ 他にも日本一になっている理由があるのではないかな? ・ たくさん養殖しても，売れなければ日本一にはなれないよね。	○　生産量第2・3位の宮城県，岡山県の海の様子を地図から読み取り，広島の海との違いに気付くことができるようにする。 ○　島の数が多い長崎県がかきの生産量日本一になっていないことから，他の要因にも目を向けることができるようにする。
			⑦　日本一になっている歴史的・経済的な理由がないか調べる。 ・ 小林五郎左衛門ていう人が，大阪でかきを広めていったんだね。 ・ 大阪での火事がきっかけで，広島のかきがたくさん売れるようになったんだね。	○　教科書の記述や調べてきたことを基に，他の要因に気付くことができるようにする。
			⑧　かき養殖業者の抱えている問題点について調べ，まとめる。 ・ 赤潮やかきのえさが減ってきたことで生産量が減ってきているんだね。 ・ かきの人気が下がってきて，かきの値段も下がってきているんだね。 ・ かきから中身を取り出す作業が大変で，働き手がな	○　日本一の生産量を誇る広島のかきを養殖している人には，悩み事はないのか問うことで，抱える問題点を導き出すことができるようにする。 ○　子どもが予想したことを検証するために，かき養殖

			かなか見つからないのだね。	業者の抱える問題点について聞いたインタビュー映像を用意する。
実践的な力を育てる場	いかす	**社会参画型の学習過程の一例** めざす社会を考える	⑨　かき養殖業者の願いについて考える。 ・ 生産量を増やしていきたいんだね。 ・ かきが高く売れるようになってほしいんだね。 ・ かきの中身を取り出す作業が楽にしたいんだね。	○　かき養殖業者が抱える問題点の裏返しが，願いにつながることに気付くことができるようにする。
		めざす社会にするための現状の問題点を分析する。	⑩　かき養殖業者の願いが実現できていない理由を考え発表する。 ・ かきが嫌いな人もたくさんいるね。 ・ 赤潮が出るとせっかく育てたかきも死んでしまうんだね。 ・ 願いを叶えるためにもたくさんのお金が必要なんだね。 ・ 中国山地の森林が減って，川から海に流れてくる水の栄養が減ってきているんだね。 ・ かきの中身を取り出す作業は，寒いし大変な作業だから働きたいと思う人が少ないんだね。	○　学習活動⑧を想起させることで，問題点に気付くことができるようにする。 ○　出てきた問題点が，かき養殖業者の三つの願いと，どのように関係しているのか考えることで理解が深まっていくようにする。
		問題点の解決のためにできる対策を考える。	⑪　前時に出てきた問題点を解決する方法を考える。 ア　山にたくさん木を植えたらいいよ。 イ　山の木を切らないように看板をつくろう。 ウ　たくさんの人が食べられるかき料理を開発したらいいよ。 エ　かき料理を開発するだけではなく，紹介もしないといけないね。 オ　森への募金をしてもらって，木を植えたらいいよ。 カ　かきの殻を森にまくと肥料になるかもよ。 キ　かきの中身を取り出す機械を開発するといいよ。 ク　広島の人たちに，排水を減らすように呼びかけよう。	○　子どもが考えた対策が，どの願いを実現することにつながるのか，どの問題点を解決することにつながるのか考えることで，より整合性のある対策を考えることができるようにする。
		対策の優先順位を決め，めざす社会に近づくためのプログラムをつくる。	⑫　対策の順番を考え，協議する。 ・ 対策の順番は，ウ→エ→ク→オ→ア→イ→カ→キがいいと思います。理由は，先にクをしても少しの消費者し	○　対策の順番の根拠を協議していく中で，より整合性のある対策の順番を考えることができるようにする。

			か協力してくれないけど，ウ・エを先にするとかき料理を食べておいしかった人が「おいしかったから食べてみて！」とか言ってどんどん広まっていくと思うからです。そうしたら，クの対策をしてもたくさんの人が協力してくれるようになると思います。	
		実際に実行されている対策を知り，自分のあり方を考える。	⑬　実際に行われている対策について知り，学習のまとめをする。 ・ 自分たちの考えた対策は，全部していました。かきの中身をとる機械がもうできているなんてびっくりしました。それ以外にも，かきを買ったらお金が募金されて植林につかわれるような仕組みになっているところもあったり，かきカレーという料理が開発されていたりして，いろいろな人たちがすごいことを考えているなと思いました。広島のかきをこれからもたくさん育ててほしいので，かきを買って募金したり，かきカレーを買ったりしていきたいです。	○　自分たちが考えた予想と実際に行われている対策とを比較することで，多くの人たちが，広島のかき養殖を守り育てるために協力していることに気付くことができるようにする。